

第72回日本体力医学会大会のご案内（第1報）

第72回日本体力医学会大会を下記の通り愛媛県松山市において開催致します。

全国から多くの会員のご参加を心からお待ちしております。

なお、学会の最新情報は第72回大会ホームページ（<http://tairyoku72.jp>）をご覧ください。

記

1. 会 期：平成29年9月16日(土)、17日(日)、18日(月)
2. 会 場：松山大学文京キャンパス（愛媛県松山市文京町4-2）
3. 大 会 長：三浦 裕正
（愛媛大学医学部附属病院長、
愛媛大学大学院医学研究科 整形外科学 教授）
4. 大会事務局：愛媛大学社会共創学部
第72回日本体力医学会大会事務局
事務局長：山本 直史
〒790-8577 松山市文京町3
TEL：089-927-9473
E-mail：yamamoto.naofumi.mk@ehime-u.ac.jp
運営事務局：〒020-0857 盛岡市北飯岡1-5-5
有限会社 ヤマダプランニング 担当：八重畑 茂
TEL：019-635-6011 FAX：019-635-6033
E-mail：tairyoku72@yamada-planning.co.jp
5. 大会プログラム（予定）
 - (1) 大会長講演
 - (2) 特別講演
 - (3) 教育講演
 - (4) シンポジウム
 - (5) 国際セッション
 - (6) ワークショップ
 - (7) 一般研究発表（口頭発表・ポスター発表）
 - (8) 学会賞受賞講演
 - (9) ランチョンセミナー
 - (10) 県民・市民公開講座
 - (11) 持久走大会
 - (12) その他

注1) 一般研究発表、公募制プログラムの申し込み等については、第2報でお知らせします。

注2) 学会大会の一般研究発表への応募は学会員に限ります。共同研究者は学会員ではなくても構いません。会員および非会員の共同研究者が本大会に参加する場合は大会参加費が必要となります。

国際セッションのご案内

日本体力医学会ではECSS（European College of Sport Science, ヨーロッパスポーツ科学学会）との間で、国際交流の促進と学会員の学術レベル向上を目的として、平成11年度より若手研究者の交流事業を実施しています。平成29年愛媛県で開催される第72回日本体力医学会大会では、日本、ヨーロッパその他の海外の若手研究者の参加による「国際セッション」を開催する予定です。

奮ってご応募くださるようお願い申し上げます。詳細に関しては第2報でお知らせいたします。

第71回日本体力医学会大会（岩手）を終えて



第71回日本体力医学会大会大会長
岩手大学保健管理センター教授・センター長

立身政信

第71回日本体力医学会大会は、2016年9月23日(金)から25日(日)の3日間にわたって、岩手県盛岡市駅西口の「いわて県民情報交流センター(アイーナ)」と「盛岡地域交流センター(マリオス)」において開催いたしました。参加者は1,662名で766題の一般研究発表が行われました。ご参加いただいた会員の皆様と、協賛いただいた団体や企業に対して、心から感謝申し上げます。

2011年3月11日の東日本大震災・津波で大きな被害を受けた岩手県は、国民体育大会の開催も危ぶまれる状況でしたが、スポーツの力で復興を盛り上げていこうという県民の熱意で、その実現に漕ぎつけました。本学会大会も、同じ被災県を含めた東北地方会会員各位の全面的なご協力を得て、「東北の再生と復興をめざすスポーツ振興と体力医学」をテーマに開催することができました。

大会プログラムとしては、大会長講演に続いて学会の前理事長・現評議員会長である下光輝一先生に「健康づくりにおける体力科学の役割」、現理事長である鈴木政登先生に「これからの日本体力医学会」と題した特別講演をいただき、本学会大会のめざすところを明確に示していただきました。また、日本医師会健康スポーツ医学委員会の川久保清先生に委員会答申として「国民が運動・スポーツを通じて健康寿命を延ばすための仕組みづくり」という特別講演をいただき、パラリンピック・チェアスキー金メダリストで岩手大学の卒業生である狩野亮選手に「今を生きる」と題して特別講演をいただきました。教育講演としては、岩手医科大学整形外科科学講座の田島吾郎先生に「膝関節のスポーツ障害」、早稲田大学スポーツ科学学術院の岡浩一朗先生に「座位行動研究の最前線」を担当していただきました。

シンポジウム13題、ワークショップ1題、日本体力医学会プロジェクト研究成果報告会、国際セッション、それにランチョンセミナー4題が行われましたが、このうち本大会のテーマである被災地の復興に関しては、2題のシンポジウムとワークショップで発表と討論が行われました。被災によるトラウマや仮設住宅での不自由な生活などによる子供たちの心身への影響が懸念されることや、高齢者への健康影響が問題になっていますが、被災以前からの地域活動や、被災後の新たなコミュニティー創造の活動が始まっており、その有効な手段としてスポーツ・運動実践があるという意見が聞かれました。マスコミの取材もあり、本大会が被災地や岩手県民に大きなインパクトを与えることができたものと思っております。

本大会の運営方法として、ポスター発表には座長を付けず、3日間とも午前中からの掲示・閲覧の後、30分間の討論時間を設けました。ポスター前での口頭発表は時間が短いことや発表者の声が視聴者に聞こえにくいことなどの欠点がありましたが、自由討論にすることで、じっ

くりと質疑応答ができるというメリットがあったようです。また、今回の大会では会員懇親会を開催しませんでした。会員相互の懇親の場を無くしてしまったことはお詫びしなければなりません。大会日程中の夜は久しぶりに会っただろう友人と会食したり、同じ大学・研究室から盛岡にやってきた仲間たちが岩手の郷土食と地酒で楽しんだりする様子があちらこちらの店で見られたという話を聞きました。被災からの復興の役に立ったか否かは別として、盛岡の商店街に活気を与えていただいたことに感謝を申し上げたいと思います。

おかげさまで、希望郷いわて国体でも地元岩手県が天皇杯・皇后杯とも目標を大きく上回る2位となったとのこと、再生と復興への活力も高まったものと思います。体力医学会大会も岩手県に大きなレガシーを残してくれました。来年の愛媛へ、そして福井へ、そして茨城へと、この力を繋いでいきたいものです。

冒頭にも書きましたが、本大会は東北地方会の会員各位に支援を仰ぎ、オール東北という形で実施させていただきました。大会長を経験されている田中正敏先生（福島県立医科大学名誉教授）と三田禮造先生（弘前大学名誉教授）には顧問に御就任いただき、日本体力医学会の前理事長と現理事長による特別講演の座長をお願いいたしました。東北地方会の前会長である山崎省一先生（石巻専修大学）と現会長で日本体力医学会の現副理事長である永富良一先生（東北大学）には副大会長として様々な御助言をいただきました。そして、実行委員会委員長の作山正美先生（MSスポーツ健康科学研究所）と事務局長の上濱龍也先生（岩手大学）、事務局員の小山薫先生（岩手医科大学）、清水将先生（岩手大学）には何度も打合せを繰り返していただきました。この他、実行委員には東北各県から27人もの方々に御就任いただき、たくさんの御支援をいただきました。特に岩手県スポーツ医科学懇話会（会長・足沢輝夫こずかた診療所長）には多大の御支援をいただき、持久走大会では競歩のJOC強化スタッフでもある清水茂幸先生（岩手大学）に多大な御協力をいただきました。また、大会運営事務局として終始懇切な対応をいただいた（有）ヤマダプランニング（山田正行社長）の八重畑茂様、（株）JTB東北盛岡支店の沼山庸子様、編集事務局の鶴岡印刷様に心から御礼申し上げます。

全国の会員と多くの皆様の支えがあって、この大会を終了することができました。重ねて感謝を申し上げ、ご挨拶に替えさせていただきます。

一般社団法人 日本体力医学会 定款

第1章 総 則

(名 称)

第1条 この法人は、一般社団法人日本体力医学会と称する。英語名は、The Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicineと表示する。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を東京都文京区に置く。

2 この法人は、理事会の決議により、従たる事務所を必要な地に設置することができる。

(地方会)

第3条 この法人は、社員総会の議決を経て、地方会を置くことができる。

2 地方会の組織及び運営に関し必要な規定は、理事会において定める。

第2章 目的及び事業

(目 的)

第4条 この法人は、日本国内外における体力ならびにスポーツ医科学に関する研究の進歩、発展を促進し、研究の連絡協力を図るとともに、その成果の活用をはかり、もって我が国の学術の発展に寄与することを目的とする。

(事 業)

第5条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 体力医学に関する学術講演会などの開催
- (2) 機関誌その他の刊行物の発行
- (3) この法人が関係する内外の関連団体との連絡及び協力
- (4) 研修会の実施と称号の授与
- (5) 体力医学の振興ならびに、普及、啓発
- (6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(学術講演会)

第6条 学術講演会は、毎年1回以上開いて会員の業績を発表する。

2 国民体育大会行事の一環として行われる学術講演会は、この法人の学会大会として、原則として国民体育大会の開催地で行われる。

第3章 会 員

(法人の構成員)

第7条 この法人の会員は、次の3種とする。

- (1) 正 会 員 体力医学に関する学識経験を有し、この法人の目的に賛同して入会した個人
- (2) 名誉会員 この法人の発展に関して学術上の功績が特に著名な者で、理事会が推薦し社員総会で承認された個人
- (3) 賛助会員 この法人の事業を賛助するために入会した団体

2 この法人は、正会員をもって、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「一般社団・財団法人法」という。）上の社員とする。

(入 会)

第8条 この法人の会員になろうとする者は、理事会の定めるところにより申込みをし、その承認を受けなければならない。

(経費の負担)

第9条 この法人の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、毎年、会員は、社員総会において別に定める額の会費を支払う義務を負う。ただし、名誉会員はこの限りでない。

2 既納の会費は、いかなる場合でも返還しない。

(任意退会)

第10条 会員は、理事会において別に定める退会届を提出することにより、任意にいつでも退会することができる。

(除 名)

第11条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、社員総会の決議によって当該会員を除名することができる。

- (1) この定款その他の規則に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

(3) その他除名すべき正当な事由があるとき。

(会員資格の喪失)

第12条 前2条の場合のほか、会員は、次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 第9条の支払義務を2年以上履行しなかったとき。
- (2) 総正会員が同意したとき。
- (3) 当該会員が死亡し、又は解散したとき。

第4章 社員総会

(構成)

第13条 社員総会は、すべての正会員をもって構成する。

(権限)

第14条 社員総会は、次の事項について決議する。

- (1) 会員の除名
- (2) 理事及び監事の選任又は解任
- (3) 理事及び監事の報酬等の額
- (4) 事業報告及び貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）等の承認
- (5) 会費の額
- (6) 理事会で付議したもの
- (7) 定款の変更
- (8) 解散及び残余財産の処分
- (9) その他社員総会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第15条 社員総会は、定時社員総会として毎事業年度終了後3箇月以内に開催するほか、必要がある場合に臨時社員総会を開催する。

(招集)

第16条 社員総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

- 2 総正会員の議決権の5分の1以上の議決権を有する正会員は、理事長に対し、社員総会の目的である事項及び招集の理由を示して、社員総会の招集を請求することができる。

(議長)

第17条 社員総会の議長は、理事長がこれにあたる。

(議決権)

第18条 社員総会における議決権は、正会員1名につき1個とする。

(決議)

第19条 社員総会の決議は、出席した正会員の議決権の過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総正会員の半数以上であって、総正会員の議決権の3分の2以上にあたる多数をもって行う。
 - (1) 会員の除名
 - (2) 監事の解任
 - (3) 定款の変更
 - (4) 解散
 - (5) その他法令で定められた事項
- 3 社員総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について、書面もしくは電磁的方法をもって議決権を行使し、又は他の正会員を代理人として議決権の行使を委任することができる。
- 4 前項の場合における第1項、第2項の規定の適用については、その正会員は出席したものとみなす。

(議事録)

第20条 社員総会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

第5章 役員等

(役員の設定)

第21条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事 20名以上25名以内
 - (2) 監事 4名以内
- 2 理事のうち1名を理事長、2名を副理事長、1名を常務理事とする。
 - 3 理事長を一般社団・財団法人法上の代表理事とし、副理事長及び常務理事を業務執行理事とする。

(役員を選任)

- 第22条 理事及び監事は、社員総会の決議によって選任する。
- 2 理事長、副理事長及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。
 - 3 監事は、この法人又はその子法人の理事又は使用人を兼ねることができない。
 - 4 役員を選出についての細則は別に定める。

(理事の職務及び権限)

- 第23条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。
- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。
 - 3 副理事長及び常務理事は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人の業務を分担執行し、理事長に事故があるときは、あらかじめ理事会で定めた順序により、その職務を代行する。
 - 4 理事長、副理事長及び常務理事は、3箇月に1回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

- 第24条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。
- 2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

- 第25条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。なお、再任は妨げないが、連続4期までとする。
- 2 監事の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。なお、再任は妨げないが、連続3期までとする。
 - 3 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。
 - 4 理事又は監事は、第21条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

- 第26条 理事及び監事は、社員総会の決議によって解任することができる。

(役員報酬等)

- 第27条 理事及び監事は、無報酬とする。ただし、常勤の理事及び監事に対しては、社員総会において定める総額の範囲内で、社員総会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

第6章 理事会**(構成)**

- 第28条 この法人に理事会を置く。
- 2 理事会は、すべての理事をもって構成する。

(権限)

- 第29条 理事会は、次の職務を行う。
- (1) この法人の業務執行の決定
 - (2) 理事の職務の執行の監督
 - (3) 理事長、副理事長及び常務理事の選定及び解職
 - (4) 社員総会に付議すべき事項の決定
 - (5) 細則及び規則類の制定、同改廃の決定

(招集)

- 第30条 理事会は、理事長が招集する。

(議長)

- 第31条 理事会の議長は、理事長がこれにあたる。

(決議)

- 第32条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。
- 2 前項の規定に関わらず、理事が理事会の決議の目的である事項について提案した場合において、その提案について、議決に加わることができる理事の全員が書面・メール又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき、その提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。但し、監事が異議を述べたときは、その限りではない。

(議事録)

- 第33条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。
2 出席した理事長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

第7章 評議員及び評議員会**(評議員)**

- 第34条 この法人に、評議員を置く。
2 評議員は、理事会で選任する。
3 評議員は、評議員会を構成し、理事会の諮問に応じ、意見を述べることができる。
4 評議員の互選により、評議員会長を置く。

(評議員会)

- 第35条 評議員会は、毎事業年度に一回開催するほか、必要がある場合に開催する。
2 評議員会は、評議員会長が招集する。
3 評議員会の議長は、評議員会長とする。
4 評議員会は、理事会の諮問に応じ、第14条に定める社員総会の決議事項のほか、この法人の運営全般について意見を述べるができる。
5 評議員会の決議は、評議員現在数の過半数が出席し、出席した当該評議員の過半数をもって行う。

第8章 資産及び会計**(事業年度)**

- 第36条 この法人の事業年度は、毎年8月1日に始まり翌年7月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

- 第37条 この法人の事業計画書、収支予算書については、毎事業年度の開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。
2 前項の書類については、主たる事務所（及び従たる事務所）に、当該事業年度が終了するまでの間備え置くものとする。
3 第1項で承認された事業計画・収支予算は直近の社員総会に報告しなければならない。

(事業報告及び決算)

- 第38条 この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受け、理事会の承認を経て、定時社員総会に提出し、第1号及び第2号の書類についてはその内容を報告し、第3号から第5号までの書類については承認を受けなければならない。
(1) 事業報告
(2) 事業報告の附属明細書
(3) 貸借対照表
(4) 損益計算書（正味財産増減計算書）
(5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書
2 前項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間（また、従たる事務所に3年間）備え置くものとする。
(1) 監査報告
(2) 理事及び監事の名簿

(剰余金の分配)

- 第39条 この法人は、剰余金の分配は行わない。

第9章 定款の変更及び解散**(定款の変更)**

- 第40条 この定款は、社員総会の決議によって変更することができる。

(解散)

- 第41条 この法人は、社員総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

(残余財産の帰属)

- 第42条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、社員総会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第10章 公告の方法**(公告の方法)**

- 第43条 この法人の公告は、この法人の主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

第11章 事務局

(事務局の設置等)

- 第44条 この法人の事務を処理するために、事務局を設置する。
- 2 事務局には、所要の職員を置く。
 - 3 職員は、理事長が理事会の承認を得て任免する。
 - 4 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、理事会の決議により理事長が別に定める。

第12章 補 則

(委 任)

- 第45条 この定款に定めるもののほか、この法人の運営に関する事項は、理事会の決議により別に定める。ただし、この定款の施行についての細則は、理事会及び社員総会の決議を経て、別に定める。

附 則

- 1 この法人は、その主たる事務所の所在地において設立の登記をすることにより成立する。
- 2 任意団体の日本体力医学会の正会員、名誉会員、賛助会員であつて、第7条に規定する正会員、賛助会員の資格を有する者及び団体は、第8条の規定にかかわらずこの法人成立の日にこの法人に入会したものとみなす。
- 3 任意団体の日本体力医学会の評議員は、この法人成立の日にこの法人の評議員に選任されたものとみなす。
- 4 この法人の最初の理事の任期は、平成27年開催予定の定時社員総会終結の時までとする。
- 5 第7条第2項の規定にかかわらず、この法人の設立時社員は、次のとおりとする。

設立時社員（住所記載省略）	下 光 輝 一
設立時社員（住所記載省略）	小 野 寺 昇
- 6 この法人の設立時役員は、次のとおりとする。

設立時理事	荒 尾 孝
設立時理事	碓 井 外 幸
設立時理事	大 野 誠
設立時理事	小 野 寺 昇
設立時理事	勝 村 俊 仁
設立時理事	川 久 保 清
設立時理事	川 原 貴
設立時理事	栗 原 敏
設立時理事	坂 本 静 男
設立時理事	定 本 朋 子
設立時理事	下 光 輝 一
設立時理事	下 村 吉 治
設立時理事	鈴 木 政 登
設立時理事	武 政 徹
設立時理事	竹 森 重
設立時理事	田 中 喜 代 次
設立時理事	田 中 宏 暁
設立時理事	田 畑 泉
設立時理事	鳥 居 俊
設立時理事	永 富 良 一
設立時理事	西 平 賀 昭
設立時理事	浜 岡 隆 文
設立時理事	福 永 哲 夫
設立時理事	山 内 秀 樹
設立時理事	吉 岡 利 忠
設立時代表理事	下 光 輝 一
設立時監事	小 林 康 孝
設立時監事	能 勢 博

一般社団法人 日本体力医学会 定款施行細則

第1章 通 則

第1条 一般社団法人日本体力医学会定款第45条に基づき、会費、役員及び評議員の選出、委員会、学術集会等に関する諸規程を設ける。

第2章 会 費

第2条 この法人の会費は、次のとおりとする。

- (1) 正 会 員 年額 10,000円
- (2) 賛助会員 年額 1口以上（1口50,000円）
- 2 会費は年度末までにそれぞれ納入しなければならない。
- 3 正会員ならびに名誉会員は、学術講演会及び機関誌に業績を発表することができ、また、機関誌等の頒布を受けるものとする。
- 4 賛助会員は、機関誌の頒布を受けるものとする。

第3章 評議員の選出等

第3条 評議員の選出は、推薦された評議員候補のうちから選考委員会の議を経て、評議員会で選任する。

- 2 評議員の選出に必要な事項は、別に「評議員選考内規」に定める。

第4章 理事候補及び監事候補の選出等

第4条 理事候補者及び監事候補者は、別に定める「選挙管理規程」に従い、評議員による選挙によって選出する。

第5章 委 員 会

第5条 この法人にその事業遂行のために、次の常設委員会を置く。

- (1) 総務委員会
- (2) 編集委員会
- (3) 学術委員会
- (4) 財務委員会
- (5) 評議員選考委員会
- (6) 渉外委員会
- (7) 倫理委員会
- (8) 利益相反委員会
- 2 各常設委員会の任務、任期、定員等は、別に定める。

第6条 この法人に、常設委員会の他、総会又は理事会の決議により必要があると認めるときは特定の事項を行わせるため特別委員会を置くことができる。

第6章 学術講演会、大会長等

第7条 学術大会に大会長を置く。

第8条 大会長は、理事会が推薦し、社員総会で選任する。

- 2 大会長は、当該年度の学術集会を組織し運営にあたる。
- 3 学術集会の運営等に関する規程は、別に定める。

第9条 大会長は、理事長の判断により必要な理事会に出席する。但し、議決権を持たない。

第10条 この法人は、理事会の議を経て、学術講演会、研修会、市民公開講座等を開催できることとする。

第7章 顧 問

第11条 この法人に、1名以上5名以内の顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、この法人における理事長の経歴を有する者で、次の職務を行う。
 - (1) 理事長の相談に応ずること。
 - (2) 理事会から諮問された事項について参考意見を述べること。
- 3 顧問の選任及び解職は、理事会において決議する。
- 4 顧問は、無報酬とする。

第8章 表 彰

第12条 この法人は、日本体力医学会学会賞等を設ける。各賞に関する事項は、学会賞選考委員会規程に定める。

第9章 補 則

第13条 この細則の変更は、社員総会の決議を経なければならない。

附 則

1. この細則は、この法人成立の日から施行する。



体力科学投稿規定

改訂：2015（平成27）年12月1日

I. 投稿資格

本誌への投稿は本学会の会員・非会員を問わない。また、編集委員会が必要と認めた場合、会員・非会員を問わず投稿を依頼することができる。

II. 掲載採否・順序

原稿の採否は、原則として2名の査読審査により編集委員会にて決定する。査読者からの意見やコメント等は2ヶ月以内に修正した論文を提出する。期限内に提出されなかった論文は不採択とする。掲載は原則として採択順とする。

III. 原稿の種類

総説、原著、ノート、資料、事例報告（症例報告を含む）、教育講座、抄録、その他（Letter to the Editor, 議事録, 学会記事, 会報など）とし、原則として和文のみとする。

- A. オンライン投稿：投稿総説、原著、ノート、資料、事例報告（症例報告を含む）とする。
- B. 依頼総説、教育講座、地方会抄録、その他（Letter to the Editor, 議事録, 学会記事, 会報など）は、J-STAGE オンライン投稿審査システムを使用せず、以下のE-mailアドレスへ添付ファイルで投稿する。

hjt-tairyoku@turuin.co.jp

IV. 原稿一般規定

ヒトおよび実験動物を対象とした研究の原著、ノート、資料および事例報告（症例報告を含む）では、当該研究施設等の倫理審査委員会あるいは動物実験委員会等の承認を受けた研究であることを「方法」に明記し、承認番号を記載するものとする。掲載された論文の著作権は日本体力医学会に帰属する。

- A. 使用ソフトウェア：下記の汎用ファイルで作成する。
 - 本文ファイル：Microsoft Office Word
 - 図表ファイル：Microsoft Office Word, Excel, PowerPoint, PDF, JPEG
- B. 用紙設定：和文、英文抄録ともに、用紙設定をA4判とし、上下左右3cmの余白を設け、左側に行番号を入れ、一段組みで10.5ポイント以上の文字でダブルスペースにて入力する。
- C. 用語：日本医学会医学用語管理委員会編「日本医学会用語辞典」英和改訂第3版（2007年出版）、和英（1994年出版）を参照する。
- D. 文体：原稿は、平かな、新かなづかい。当用漢字、外国語、外国固有名詞、化学物質名などは原語、外来語、動植物名などは片かな、数字はアラビア数字を使用する。
- E. 単位及び単位記号：原則として国際単位系（SI）に従うが、当該領域で慣用されているものはこの限りではない。
- F. 図表：説明は英文で適切な題目をつけ、それに続いて図表の内容が理解できる説明を別紙に記載する。
- G. 掲載料及び別刷料：筆頭著者が本学会会員の場合、1編につき刷り上がり6頁までは本学会が負担する。（2,400字が刷り上がり1頁に相当する）
 - 6頁を超過した場合、1頁あたり3,000円の掲載料を著者が負担する。
 - 筆頭著者が非会員の場合、全頁について1頁あたり3,000円の掲載料を著者が負担する。
 - 別刷料は著者負担とする。尚、論文掲載後に正誤表を新たに追加する際、その料金は著者負担とし、1頁につき6,000円の掲載料を負担する。

H. 校正：編集委員会の決定した期日内で、校正はすべて著者の責任により行う。

I. 投稿についての問い合わせ

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1

鶴岡印刷株式会社内 「体力科学」編集事務局宛

〔電話FAX 共通 0235-22-3120〕 E-mail : hj-tairyoku@turui.co.jp

V. 投稿規定

A. 原著および総説

1. 論文は独創性に富み、未投稿の研究論文とする。1頁目には、表題、著者名、共著者名、所属機関名、所在地の各（和・英）と、別刷希望部数を明記する。2頁目には英文抄録とKey words、3頁目以降に緒言、方法、結果、考察、引用文献、図の説明の順に記載する（図表の挿入位置は本文に赤で示す）。表および図は本文原稿とは別に作成する。また、表および図の中の文字および説明は、英語表記とする。
2. 原稿には英文抄録（Abstract：研究目的、方法、結果、結論などを含めて250words以内で記載）およびその和訳文を付ける。またランニングタイトルは、和文で20字以内を明記し、Key words（5語以内）を付ける。Key wordsはMedical Subject Headings（国立医学図書館：最新号）を参考にする。
3. 本文中で引用文献に言及した場合、文章の右肩か著者名の右肩に、末尾の引用文献に照応する番号を付ける。3人以上の共著の場合は“ら”“et al.”を用いる。

例1：長島¹⁾によれば……………

例2：手島と角田²⁾によれば……………

例3：馬ら³⁾によれば……………

4. 文献表の作り方

- 1) 引用文献の記載順序は本文中の引用順に整理して、本文中の番号と照合する。文献表の著者名は“ら”、“et al.”と省略せず、全著者名を列記する。人名の記載順は姓を先にして名を後にする。本文中に引用されていない文献は、文献表に記載しない。doiの記載を推奨する。

2) 雑誌から直接引用する場合

番号、著者名：論文表題、掲載雑誌、巻：頁（始頁－終頁）、西暦年数の順に記す。

例1：長島未央子：長時間自転車運動が鍛練者の酸化ストレス度及び血中ビタミン濃度に及ぼす影響, 体力科学, 60: 279-286, 2011. doi: 10.7600/jspfsm.60.279.

例2：手島貴範, 角田直也：身長相対発育からみた男子サッカー選手の大腿部筋厚発育とボールキック能力の発達, 体力科学, 60: 195-205, 2011. doi: 10.7600/jspfsm.60.195.

例3：馬 佳濛, 柴田 愛, 村岡 功：インターネットを利用する中国成人における推奨身体活動充足に関連する社会人口統計学的要因, 体力科学, 60: 185-193, 2011. doi: 10.7600/jspfsm.60.185.

3) 単行本から引用する場合

番号、著者または編者名、章名、書名（章名がある場合は書名をイタリック体にする）、版数（括弧に入れる）、編者名（章著者がある場合）、発行所、発行所の所在地、引用頁、西暦年数の順に記す。

例：彼末一之, 中島敏博. 4. 神経機構 I - 温度求心路と体温調節「中枢」-, 脳と体温 - 暑熱・寒冷環境との戦い -, 共立出版, 東京, 72-97, 2000.

4) 訳本から引用する場合

著者名, (訳者名), タイトル, 出版社, 地名, ページ, 出版年の順に記す。

例：アメリカスポーツ医学協会編（日本体力医学会体力科学編集委員会監訳）, 運動処方



の指針-運動負荷試験と運動プログラム-原著第8版, 南江堂, 東京, 57-108, 2011.

5) 欧文の雑誌と単行本から引用する場合

例 1 : Steinberg SF. The molecular basis for distinct β -adrenergic receptor subtype actions in cardiomyocytes. *Circ Res* 85: 1101-1111, 1999. doi:10.1161/01.RES.85.11.1101.

例 2 : Bajotto G, Shimomura Y. Determinants of disuse-induced skeletal muscle atrophy: Exercise and nutrition countermeasures to prevent protein loss. *J Nutr Sci Vitaminol* 52: 233-247, 2006. doi:10.3177/jnsv.52.233.

例 3 : Sato S, Nomura S, Kawano F, Tanihata J, Tachiyashiki K, Imaizumi K. Effects of the β_2 -agonist clenbuterol on β_1 - and β_2 -adrenoceptor mRNA expressions of rat skeletal and left ventricle muscles. *J Pharmacol Sci* 107: 393-400, 2008. doi:10.1254/jphs.08097FP.

例 4 : Shimomura Y, Murakami T, Nakai N, Nagasaki M. Exercise and metabolism in muscle cells: Molecular aspects of energy metabolism during exercise and adaptation to exercise training. *In: Exercise, Nutrition, and Environmental Stress Vol.1* (Nose H, Gisolfi CV, Imaizumi K, eds.), Cooper Publishing Group, LLC., MI, USA, 89-116, 2001.

B. ノート, 資料および事例報告 (症例報告を含む)

原著及び総説の投稿規定に準ずる. 但し, ノートおよび事例報告 (症例報告を含む) は原則として刷り上がり 4 頁以内, 図表は 2 点までとする.

C. 依頼総説および教育講座

1. 依頼総説および教育講座は, 体力科学編集委員会の依頼による.

2. 原稿について

1) 依頼原稿は刷り上がり 10 頁以内を原則とする.

2) いずれの原稿も表題, 著者名, 所属などは体力科学投稿規定 V-A に準じて英文名を附す. 教育講座では必ずしも英文抄録を必要としないが, 依頼総説では体力科学投稿規定 V-A に準ずる.

D. 地方会の抄録

原稿は, 一編 900 字以内で表題, 著者名, 所属, 本文を和文で記す.

※提出期限に遅れた場合, 本誌に掲載されない.

E. その他 (Letter to the Editor, 議事録, 学会記事, 会報など)

※Letter to the Editorの項では, 本誌に掲載された原著, 総説, その他の掲載内容についての質問, 疑問, コメント等を編集委員会に寄せ, それに対する回答を執筆者に求め, その内容を掲載する. 質問者も回答者もすべて実名とする.

VI. 倫理・利益相反

A. 人体ならびにヒト組織を対象とした科学研究を取り扱う論文では, その実験は1964年のヘルシンキ宣言 (<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/>) で承認された倫理基準, または2014年12月に文部科学省および厚生労働省により制定された「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」 (<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10600000-Daijinkanboukouseikagakuka/0000069410.pdf>) に従って実施されなければならない. また, ヒト遺伝子を取り扱う実験は, 日本政府のヒトゲノム・遺伝子解析研究 (http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/hito_genom.html) に従ってなされなければならない. 日本体力医学会編集委員会では, 所属機関の倫理委員会の承認を得た後に実施された研究に限ってその論文の投稿を受け付ける. 当該研究がこれらのガイドラインに従って実施されたことを投稿論文内に明記し, さらに所属機関の倫

理委員会が発行した承認書の承認番号を論文中に記載するものとする。

- B. 実験動物を対象とした研究においては、わが国の動物実験関連法規・指針を遵守して実施されなければならない。投稿論文内にはその旨を必ず明記し、所属機関の動物実験委員会等が発行した当該動物実験承認書の承認番号を論文中に記載するものとする。
- C. 総説、原著論文、それに準ずる論文を投稿する際、日本体力医学会における事業遂行に係る利益相反（COI）に関する指針（http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi_guideline.htm）に基づき、該当する場合には（「自己申告による利益相反申告書」（別紙様式1））に記入し、併せて編集事務局に提出するものとする。定められた利益相反状態に該当しない場合は、論文末尾に「利益相反自己申告：申告すべきものはなし」と記載するものとする。

附：投稿論文の種類は概ね次の基準によって分類される。

- 1) 原著：独創的研究で新しい事実と価値ある結論を有するもので、体力科学・スポーツ医学の進歩に貢献するものとする。
- 2) ノート：原著より短い、新しい事実や価値ある結論が含まれるものとする。
- 3) 資料：適切な分析法または調査法による有用な結果が含まれ、公表することにより体力科学・スポーツ医学の分野において会員の研究・実践活動に有用な情報を含むものとする。
- 4) 事例報告(症例報告を含む)：運動・スポーツ等による体力医学・スポーツ医学の立場からみた様々な効果または治療・指導効果等の事例報告。



論文の分類

I 生理科学的研究

- I-1 神経, 感覚
 - I-1-a 末梢神経
 - I-1-b 中枢神経
 - I-1-c 感覚
 - I-1-d 運動制御
- I-2 運動器
 - I-2-a 筋生理
 - I-2-b 筋生化学
 - I-2-c 骨, 関節
- I-3 呼吸, 循環
 - I-3-a 呼吸
 - I-3-b 心臓
 - I-3-c 末梢循環
- I-4 血液, 免疫
 - I-4-a 血液
 - I-4-b 免疫
- I-5 体液, 内分泌
 - I-5-a 体液, 汗, 尿
 - I-5-b 内分泌
- I-6 代謝
 - I-6-a エネルギー代謝
 - I-6-b 糖代謝
 - I-6-c 蛋白代謝
 - I-6-d 脂質代謝
- I-7 栄養, 消化
 - I-7-a 栄養
 - I-7-b 消化, 吸収
- I-8 形態, 体構成
- I-9 加齢, 性差
 - I-9-a 発育発達
 - I-9-b 老化
 - I-9-c 性差
- I-10 環境
 - I-10-a 温湿度
 - I-10-b 気圧, 風圧
 - I-10-c 低酸素
 - I-10-d 高酸素

- I-11 トレーニング
 - I-11-a 呼吸, 循環
 - I-11-b 代謝
 - I-11-c 筋骨格系他
 - I-11-d 体組成
 - I-11-e その他
- I-12 生活, 健康
 - I-12-a 休養, 疲労
 - I-12-b 健康管理
 - I-12-c 疫学
- I-13 バイオメカニクス
 - I-13-a 力学的情報
 - I-13-b 動作分析
 - I-13-c その他
- I-14 遺伝子
 - I-14-a 遺伝子多型
 - I-14-b 遺伝子制御
 - I-14-c その他
- I-15 その他

II スポーツ医学的研究

- II-1 スポーツと疾患
 - II-1-a 呼吸器疾患
 - II-1-b 循環器疾患
 - II-1-c 代謝疾患
 - II-1-d スポーツ外傷
 - II-1-e スポーツ障害
 - II-1-f スポーツ歯科
 - II-1-g その他の疾患
- II-2 リハビリテーション, 運動療法
 - II-2-a リハビリテーション
 - II-2-b 運動療法
- II-3 薬物, ドーピング
- II-4 スポーツ心理学
- II-5 その他

JPFSM : Instructions for Authors

September 1, 2016

*An Official Journal of the Japanese Society of
Physical Fitness and Sports Medicine*

The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (J. Phys. Fitness Sports Med. : JPFSM) Instructions for Authors

The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine (JPFSM) is a scientific journal that publishes peer-reviewed **regular articles, short communications, case reports, study protocol, reviews, short reviews, letters to the editor and proceedings**, based on the principles and theories of modern physical fitness and sports medicine. All aspects of interdisciplinary sciences such as physical fitness, sports medicine, exercise physiology, biomechanics, training sciences and health sciences are covered. The Journal will publish original and innovative submissions in English from both members and non-members of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine, on the understanding that the work is unpublished (except in abstract form) and is not being considered for publication elsewhere. The process of obtaining results must be ethically sound.

Only manuscripts that are written in clear and concise English will be accepted for review. If English is not the authors' first language, the Editorial Committee recommends the manuscript receives professional editing service before submitting their manuscript to the Journal. English editing and revision will be conducted on manuscripts whose English grammar, spelling, *etc.* is judged to be inadequate by the Editorial Board of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine.

1. TYPES OF MANUSCRIPT(S)

The Journal publishes eight types of manuscript(s):

- 1) **Regular Articles:** The manuscript being submitted must consist of original research carried out by the author(s) and the research must include new information that is of significance. These articles should be 10 printed pages or less.
- 2) **Short Communications:** The manuscripts being submitted must consist of original research carried out by the author(s) and the research must include preliminary or more limited research results, but of general or special interest. Manuscripts containing interesting findings without detailed discussion, research results of narrow scope of a predominantly negative nature may also be suitable for publication as *Short Communications*. These articles should be 4 printed pages or less.
- 3) **Case Reports:** A case report is for introducing a rare example or medical case without precedent, not for verifying a hypothesis. The manuscript being submitted must consist of actual examples (usually from one to two or more) of various issues or phenomena from physical activities, sports, etc. Such issues or phenomena should come from the area of physical fitness and sports medicine, or therapeutic/instructional topics, etc. These articles should be 4 printed pages or less. A case report is a brief report categorized under *Case Reports* and should be organized as follows: "Abstract", "Introduction", "Case Report", "Discussion", "References".
- 4) **Study Protocol:** A study protocol is for introducing a method of verifying various issues or phenomena from physical activities, sports, etc that are from the area of physical fitness, health science, and sports medicine. The study must be in the planning stage or in progress. These articles should be 10 printed pages or less. For



reporting a protocol of a randomized controlled trial, it must conform to the SPIRIT Statement (Standard Protocol Items for Randomized Trials) (<http://www.spirit-statement.org/>).

- 5) **Reviews:** The manuscripts are submitted by invitation from the Editorial Board, and encompass recent important scientific discoveries. Volunteered reviews are also welcome after previous contact with the Editorial Board. Reviews are more broad based and these articles should be 10 printed pages or less.
- 6) **Short Reviews:** The manuscripts are submitted by invitation from the Editorial Board, and will mainly describe recent research results from the authors' own laboratories. Volunteered short reviews are also welcome after previous contact with the Editorial Board and these articles should be 4 printed pages or less.
- 7) **Letters to the Editor:** Constructive comments and data on papers published in this Journal will be considered. An opportunity will be provided for rebuttal to the authors in question. A letter, data and the authors' reply are limited to a printed page each.
- 8) **Proceedings:** Proceedings provide short summaries of in-progress or completed primary studies that have been presented at the General Sessions of the Annual Meeting of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine, but have not yet been fully peer-reviewed for publication as complete articles. Proceedings (up to 1,800 characters) will be published in Volume 6 of the journal.

2. REVIEWS

- 1) With the exception of Invited Reviews and Short Reviews, manuscripts will be reviewed by two or more referees, whose opinions will form the basis of the final decision by the editor.
- 2) The manuscripts in the invited Reviews and Short Reviews will be reviewed by the Editorial Board members.
- 3) Authors should submit the revised manuscript no later than two months from the date of notation of manuscript revision by the editor. A manuscript that is not revised within two months may be rejected.
- 4) Proceedings have not yet been fully peer-reviewed for publication as other articles.

3. SUBMISSION GUIDELINES

- 1) The manuscript must be submitted from "J-STAGE online submission and review system".
<http://www.editorialmanager.com/jpfs/>
- 2) Proceedings must be submitted through the Annual Meeting website by the submission deadline. Proceedings submission guidelines will be available on the website.

4. CONTACT US

Editorial office of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine
Tsuruoka Printing Co., 1-1 Doai, Oyodogawa, Tsuruoka-shi, Yamagata-ken 997-0854, Japan
E-mail: hj-tairyoku@turui.co.jp

5. MANUSCRIPT PREPARATION

1) Cover Letter

The "Required Submission Form" should be attached with the manuscript as a cover letter. It should include information on the corresponding author (the corresponding author's name, affiliation and address, telephone/fax numbers, and e-mail address), and for non-native English-speaking authors, the name of the native English speaker and company that checked the manuscript for correct English usage. For contributions from Japan, the corresponding author's name and address should be written in Japanese as well as English.

Upon acceptance of an article by the Journal, the abstract will be published on the homepage of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine.

2) Manuscript

Authors should use Times New Roman 12pt font double-spaced (80 strokes×26 lines) on A4 size paper, single sided and line-numbered throughout.

(1) Title page The title page (page 1) should start with the type of manuscript (Regular Article, Short Communication, Review, *etc.*), the title, name(s) of the author(s), affiliation(s), mailing address(es), number of tables and figures, a brief running title (70 characters or less). The corresponding author's e-mail address should be included in the title page. An asterisk(*) should be added to the right of the corresponding author's name.

(2) Abstract and Keywords Page 2 should contain a abstract no longer than 250 words, as well as 3 to 6 descriptive keywords, listed in decreasing order of importance. The keywords must be independent, as they will be used in a keyword combination in the index (within 80 characters). Page 3 should contain the title, affiliation(s), author(s) names and abstract in Japanese, if a manuscript is written by Japanese authors.

(3) Main text The text (“Introduction”, “Materials and Methods”, “Results” and “Discussion”. “Results” and “Discussion” may also be combined as “Results and Discussion”), acknowledgments, and references should be presented in this order. After a manuscript has been accepted, authors will require to formally submit their paper in electronic format.

6. MANUSCRIPT FORM

1) Affiliations When there are two or more authors and they belong to more than one affiliation, the connection between each author and his or her affiliation should be indicated by italicized superscript 1, 2, 3... placed after each author's name and before each affiliation.

Examples for describing affiliations and mailing addresses:

¹Laboratory of Physiological Sciences, Faculty of Human Sciences, Waseda University, 2-579-15 Mikajima, Tokorozawa, Saitama 359-1192, Japan

²Laboratory of Biomechanics, Faculty of Sport Sciences, Waseda University, 2-579-15 Mikajima, Tokorozawa, Saitama 359-1192, Japan

³Waseda Institute for Advanced Study, Waseda University, 1-61-1 Nishiwaseda, Shinjuku-ku, Tokyo 169-8050, Japan

⁴Laboratory of Applied Biochemistry, Faculty of Science and Engineering, Waseda University, 3-4-1 Oukubo, Shinjuku-ku, Tokyo 169-8555, Japan

2) Abbreviations Abbreviations must be spelled out in full at their initial appearance, followed by the abbreviation in parentheses. Thereafter, only the abbreviation is necessary. Authors should limit to an absolute minimum the use of abbreviations in the title. However, the following need not be defined: AMP, ADP, ATP, cAMP, cDNA, CoA, DNA, RNA, mRNA, LD₅₀, FAD, FMN, GMP, P450, *etc.*

3) Units The following units should be used: length (m, cm, mm, μm, nm), mass (kg, g, mg, μg, ng, pg, mol, mmol, μmol, nmol), volume (l, ml, μl), time (s, min, h, d), temperature (°C, K), radiation (Bq, Ci, dpm, Gy, rad), and concentration (M, mM, mol/l, mmol/l, mg/ml, μg/ml, ng/ml, pg/ml, %, %(v/v), %(w/v), ppm, ppb).

4) Nomenclature The nomenclature used for chemical compounds shall be in accordance with the nomenclature rules of the IUPAC.

5) Tables Using the same word-processing software as used for text, create tables on an A4 page numbered sequentially with Arabic numbers (e.g., Table 1). Give the title at the top of each table, and footnotes, legend etc. under the table.

6) Figures Use figures directly created as camera-ready copy. Place each figure on an A4 page and number sequentially with Arabic numerals (e.g., Fig. 1). Titles and footnotes, descriptions etc. should be given on a separate page, under the heading “Figure Legend”.

Drawings prepared with the aid of software packages are acceptable as long as they are high-quality print-out ready. Drawings prepared for oral presentation are seldom suitable for use in printed documents. All figures should



be marked with the first author's name and number in the lower right corner of each sheet.

The appropriate location of each table or table embedded in the text should be indicated in red ink in the margin of the manuscript. Duplication of data in tables and figures should be avoided. The cost of color reproduction of figures will be charged to the author(s).

7) References References should be restricted to only those that are essential, and extensive review of the literature should be avoided. References cited in the text should be numbered (in italic) in order of appearance and listed at the end of the text. Indication of doi (digital object identifier) is encouraged.

Examples of references are as follows:

For references with only one author:

Steinberg SF. 1999. The molecular basis for distinct β -adrenergic receptor subtype actions in cardiomyocytes. *Circ Res* 85: 1101-1111. doi:10.1161/01.RES.85.11.1101.

Two authors:

Bajotto G and Shimomura Y. 2006. Determinants of disuse-induced skeletal muscle atrophy: Exercise and nutrition countermeasures to prevent protein loss. *J Nutr Sci Vitaminol* 52: 233-247. doi:10.3177/jnsv.52.233.

Up to twenty authors:

Author A, Author B, Author C, Author D, Author E, Author F, Author G, Author H, Author I, Author J, Author K, Author L, Author M, Author N, Author O, Author P, Author Q, Author R, Author S and Author T. 2008. Effects of the β_2 -agonist clenbuterol on β_1 - and β_2 -adrenoceptor mRNA expressions of rat skeletal and left ventricle muscles. *J Pharmacol Sci* 107: 393-400. doi:10.1254/jphs.08097FP.

More than twenty authors, list the twenty followed by et al.:

Author A, Author B, Author C, Author D, Author E, Author F, Author G, Author H, Author I, Author J, Author K, Author L, Author M, Author N, Author O, Author P, Author Q, Author R, Author S and Author T. et al. 2012. Some aspects of heat stress on the plasticity of skeletal muscle cells. *J Phys Fitness Sports Med* 1: 197-204. doi: 10.7600/jpfs.1.197.

Citation from a book:

Shimomura Y, Murakami T, Nakai N and Nagasaki M. 2001. Exercise and metabolism in muscle cells: Molecular aspects of energy metabolism during exercise and adaptation to exercise training. *In: Exercise, Nutrition, and Environmental Stress* (Nose H, Gisolfi CV, Imaizumi K, eds.), 1: 89-116, Cooper Publishing Group, LLC., MI, USA.

Citation from a paper in Japanese:

Nagashima M. 2011. Effects of endurance exercise on oxidative stress and antioxidant vitamin levels in trained cyclist. *Tairyoku Kagaku (Jpn J Phys Fitness Sports Med)* 60: 279-286 (in Japanese). doi:10.7600/jspfs.60.279.

If more than two references with the same year and author(s) are cited, use lowercase letters after the year (Tanaka et al. 2015a, 2015b). Lowercase letters should be inserted in same-year references in the reference list.

7. ETHICS / Conflicts of Interest (COI)

1) For manuscripts dealing with scientific investigations involving human subjects and/or human tissues, the experiments should be performed in accordance with the ethical standards formulated in the Helsinki Declaration of 1964 (<http://www.wma.net/en/30publications/10policies/b3/>) and/or Ethical Guidelines for Medical and Health Research Involving Human Subjects (<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10600000-Daijinkanboukouseikagakuka/0000080278.pdf>), while experiments dealing with the human genome should be conducted according to the Japanese Government's "Ethical Guidelines for Human Genome/ Gene Analysis Research" (http://www.lifescience.mext.go.jp/bioethics/hito_genom.html). Furthermore, only studies that have been performed after receiving approval from the appropriate Institutional Ethics Committee (IEC) will be accepted for

publication. "Materials and methods" sections on research using human subjects or samples must include ethics statements that specify: the study was carried out in accordance with the appropriate guidelines, and the name of the approving institutional review board or equivalent committee(s) with the approval number.

- 2) Manuscripts describing animal experiments should be conducted in accordance with the experimental animal guidelines of the institution as well as the appropriate government guidelines, such as those published by the Japanese Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology. Only manuscripts of experiments conducted in accordance with the appropriate guidelines will be eligible for publication. "Material and methods" sections of manuscripts reporting results of animal research must include required ethics statements that specify: the study was conducted according to the appropriate guidelines, the full name of the institutional Animal Care and Use Committee or equivalent ethics committee that approved the work, and the associated permit number(s).
- 3) When submitting reviews, original articles, and articles equivalent to these, the guidelines for a conflict of interest (COI), as related to operations implemented by the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine, shall be followed (http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi_guideline.htm). In the event the guidelines are partially applicable, (http://www.jspfsm.umin.ne.jp/coi/coi_guideline.htm), the relevant portion(s) should be described in the "Declaration of Conflict of Interest by Self-report" (Attached Form 1) and submitted to the Editorial Board. In the event the guidelines are not applicable to the regulated conflict of interest condition, this should be declared by writing "Conflict of Interests: The author(s) declare that there is no conflict of interests regarding the publication of this article" at the end of the article.

8. PROOF READING

The author will be required to proof-read the galley of an accepted manuscript. Major changes at this time will no longer be permitted.

9. PAGE CHARGE

For page charges, see the table below (not including tax). The corresponding Author will be invoiced after publication.

	Page Charge (yen/page)	Color Photo (yen/page)
Regular Article	3,000	15,000
Short Communication	3,000	15,000
Case Report	3,000	15,000
Study Protocol	3,000	15,000
Review (submitted)	3,000	15,000
Short Review (submitted)	3,000	15,000
Letters to the Editor	0	0

Invited Reviews and Short Reviews have no page charges.

10. OTHER IMPORTANT POINTS

- 1) In general, after a paper has been reviewed, no authors may be added or deleted from the paper, and the order of the names of the authors cannot be changed.
- 2) The authors are given an opportunity to proofread the galley of an accepted manuscript. No additions and revisions are allowed other than the correction of typographical errors.
- 3) The copyrights of all manuscripts published in the Journal of Physical Fitness and Sports Medicine belong to the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine.



Categories covered

- | | | |
|--------------------------------------|----------------------------------------|-----------------------------------|
| 1 Nervous and sensory system | 2 Motor control | 3 Musculoskeletal system |
| 4 Respiratory and circulatory system | 5 Hematology and immunology | 6 Humor and endocrinology |
| 7 Metabolism | 8 Nutrition and digestion | 9 Morphology and body composition |
| 10 Aging and gender difference | 11 Environmental physiology | 12 Exercise training |
| 13 Lifestyle and health | 14 Biomechanics | 15 Genes and gene regulation |
| 16 Sports medicine and diseases | 17 Rehabilitation and exercise therapy | 18 Drug and doping |
| 19 Sports psychology | 20 Miscellaneous | |

ご 案 内

〈各種手続方法〉

	連絡先	住 所	電話番号	備 考
正会員の入退会 及び住所所属変更	一般社団法人 学会支援機構 日本体力医学会事務局	〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 ユニゾ小石川アーバンビル4階 E-mail: jspfsm@asas.or.jp	TEL 03(5981)6015 FAX 03(5981)6012	入会は評議員1名の推薦 が必要 入会はHPより登録
正会員の会費納入	〃	〃	〃	年会費 10,000円 (事務局より送付される 所定振込用紙を使用)
購読会員の入退会 及び購読料納入	〃	〃	〃	年間 12,960円
学会誌のバック ナンバーの販売	〃	〃	〃	
賛助会員に関する業務	〃	〃	〃	
和文誌の投稿は http://www.editorialmanager.com/jspfsm/	「体力科学」編集事務局	〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1 鶴岡印刷株式会社内 E-mail: hj-tairyoku@turuin.co.jp	0235(22)3120 TEL, FAX 共通	和文誌「体力科学」 投稿規定はHP参照のこと
英文誌の投稿は http://www.editorialmanager.com/jpfsfm/	「JPFISM」編集事務局	〃	〃	英文誌「JPFISM」 投稿規定はHP参照のこと

〈地方会事務局〉

- 北海道地方会 〒060-0811 北海道札幌市北区北11条西7丁目
北海道大学大学院教育学研究院健康体育学分野
水野 眞佐夫 (事務局長: 柚木 孝敬)
TEL: 011(706)3296 (FAX共通)
E-mail: mizuno@edu.hokudai.ac.jp
- 東北地方会 〒960-1296 福島県福島市金谷川1
福島大学人間発達文化学類
安田 俊広 (事務局長)
TEL: 024(548)8209 (FAX共通)
E-mail: yasuda@educ.fukushima-u.ac.jp
- 関東地方会 〒105-8461 東京都港区西新橋3丁目25番8号
東京慈恵会医科大学・分子生理学講座・体力医学研究室
竹森 重・山内 秀樹 (事務局担当 田口 美香)
TEL: 03(5400)1200 (内線2216)
FAX: 03(3431)3827
E-mail: mol-phys@jikei.ac.jp
- 北陸地方会 〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学1-1
金沢医科大学病院総合診療センター
田村 暢熙
TEL: 076(286)2211 FAX: 076(218)8090
E-mail: tamura@kanazawa-med.ac.jp
- 東海地方会 〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学総合保健体育科学センター
押田 芳治 (幹事 水野 貴正)
TEL: 052(789)3961 (押田), 3959 (水野)
FAX: 052(789)3957
E-mail: oshida@htc.nagoya-u.ac.jp
mizuno@htc.nagoya-u.ac.jp
- 近畿地方会 〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3
大阪市立大学大学院医学研究科運動生体医学分野
吉川 貴仁
TEL: 06(6645)3790 FAX: 06(6646)6067
E-mail: wsports@med.osaka-cu.ac.jp
- 中国・四国地方会 〒701-0193 岡山県倉敷市松島288
川崎医療福祉大学医療技術学部健康体育学科
小野寺 昇 (事務局長: 矢野 博己)
TEL: 086(462)1111 (内線 54041, 54835)
FAX: 086(464)1109
E-mail: jspfsm@mw.kawasaki-m.ac.jp
URL: <http://jspfsmchu4.wixsite.com/chu4>

〈FIMS(国際スポーツ医学会)事務局〉

FÉDÉRATION INTERNATIONALE DE MÉDECINE
SPORTIVE (F.I.M.S.)

Secretary General of FIMS:
Prof. Lyle J Micheli, MD, USA
Office: Children's Hospital- 2nd floor, Division of Sports
Medicine, 319 Longwood Avenue,
Boston, MA 02115, UNITED STATES OF AMERICA
Tel: +617 355 6970
Fax: +617 730 0694
Email: michelilyle@aol.com
Alternate Email: stacey.cobban@childrens.harvard.edu

2016年度第2回日本体力医学会編集委員会議事録

日時：2016年9月22日(木) 16:00~17:15

場所：いわて県民情報交流センター（アイーナ）5F
会議室501

出席者：田中喜代次（委員長）、後藤勝正（副委員長）、
秋本崇之、家光素行、大藏倫博、川中健太郎、
木田哲夫、小宮秀明、小山勝弘、小山照幸、
武政 徹、竹森 重、寺田 新、十枝内厚次、
中田由夫、成田和穂、浜岡隆文、藤井宣晴、
宮下政司、宮地元彦、山内秀樹、吉川貴仁、
和気秀文（各委員）

（編集事務局：佐藤信之、本間佳子、田中加奈子）

欠席者：赤間高雄、宇高 潤、木崎節子、
小宮山伴与志、重松良祐、田中英登、中澤公孝、
藤田 聡、麓 正樹、前田清司、松尾知明、
渡辺 賢（各委員）（委任状12通）

【審議事項および報告事項】

1. 2016年度第1回編集委員会の議事録

上記の件につき確認された。

2. JPFSM・体力科学誌の投稿状況と現状報告

（2015年9月1日~2016年8月31日現在）

編集事務局より、JPFSM誌・体力科学誌の投稿・
掲載状況、審査期間、J-STAGEのアクセス統計につ
いて報告された。新規投稿についてはJPFSM誌：31
編（前年比6編増）、体力科学誌：44編（前年比11編
減）であった。JPFSM誌では不備のため受付不可の投
稿が6件あり、その内訳は国内4件、海外2件と報告
された。JPFSMのアクセス統計に関しては、前年比
15,000件の減となっているが、J-STAGE発表の前年
の中国からの爆発的なアクセスを除けば19,000件の増
となっていることが報告された。

3. MEDLINE (PubMed) 収録、再申請について

2014年11月に「不採択」となっていたMEDLINE
(PubMed) 収録の再申請について、今年11月に再申
請ができる。これについて、委員長、副委員長より、
Regular articleを増やす、海外のEditorを加えるなど
して確実にパスできるような体制を整えてから再申請
してはどうかとの提案があった。

「JPFSM投稿・引用促進WG」からは、編集の体制
が整っているか、RegularとReviewの比率を2:1と
する、Acceptまでの期間短縮、ジャーナルの意義を
明確にする等、戦略的な対応が必要との意見があった。
種々議論がなされ、「JPFSM投稿・引用促進WG」を
中心にジャーナルの意義を見直すと共に、海外のE
ditorの加入の有無も含め、MEDLINE (PubMed) 収録
の再申請は検討を続け、早い時期に案を取りまとめる
こととなった。

併せて編集委員会、理事会の先生方にRegular ar
ticleの投稿をお願いすることとした。

4. 掲載料の改定について

編集委員長より、理事会より編集委員会に対して編
集業務に係る支出を減らせないかとの打診があったの
に対し、「学会大会」と並び「ジャーナル発行事業」は
学会として最重要事業との考えから、まずここには手
をつけないで、収入を増やすための方策を検討するこ
ととしたことが報告された。

収入を増やす為の方策として「1頁当たりの掲載料
の増額」「1編当たりの掲載料としての増額」「カラー
掲載料の増額」等、改定案が出された。

他ジャーナルとの比較、投稿者が許容できる増額、
Web版への移行等、種々議論がなされ、学会員として
のメリットも考えつつ、検討を続け、可及的速やかに
一本化した案を再度審議に掛けることとなった。

第31回日本体力医学会近畿地方会のご案内

日 時：平成29年3月18日(土)
10:00～17:30 (受付9:30)
会 場：和歌山大学教育学部講義棟1階
アクセス：南海和歌山大学前駅より徒歩15分(バス3分)
教育講演：「高意欲と認知機能を共に高める運動効果」
征矢英昭 (筑波大学体育系運動生化学)

シンポジウム：

「健康長寿のための体力・スポーツ医学的役割」

シンポジスト：

石井好二郎 (同志社大) 吉川貴仁 (大阪市立大)
未定 (和歌山県立医大) 本山 貢 (和歌山大)

問い合わせ先：

和歌山大学教育学部保健体育教室
第31回日本体力医学会近畿地方会
大会会長 本山 貢
TEL: 073-457-7309 FAX: 073-457-7458
E-mail: motoyama@center.wakayama-u.ac.jp

平成29年日本体力医学会関東地方会の開催予定

平成29年の関東地方会は下記の通り予定されています。地方会のご案内、演題募集、プログラム等は、逐一「体力科学」および「日本体力医学会ホームページ」にてご連絡申し上げます。皆様の演題応募ならびに積極的なご参加をお待ち申し上げます。

第169回日本体力医学会関東地方会

開催日：平成29年3月18日(土) 13:00～18:00

会 場：大妻女子大学千代田キャンパス

(使用教室は未定)

東京都千代田区三番町12

(<http://www.otsuma.ac.jp/>)

JR総武線、東京メトロ有楽町線・市ヶ谷駅から
徒歩10分

東京メトロ半蔵門線・半蔵門駅より徒歩5分

東京メトロ東西線・九段下駅より徒歩12分

[一般演題の締め切り予定：平成29年2月18日(土)]

大会長：高波嘉一 (大妻女子大学家政学部食物学科)

Tel & Fax: 03-5275-6046

E-mail: yoshi.takanami@otsuma.ac.jp

教育講演：

「高め強度インターバルトレーニング～体力低位者への適用～」

演者：松尾知明 (独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所)

特別講演：

「褐色脂肪組織の増加・活性化と生活習慣病の予防」

演者：浜岡隆文

(東京医科大学健康増進スポーツ医学分野)

シンポジウム：

「女性アスリートの減量にまつわる諸問題」

演者：須永美歌子 (日本体育大学)

松本 恵 (日本大学)

小清水孝子 (大妻女子大学)

村田由香里 (日本体育大学, シドニーオリンピック新体操日本代表選手)

第170回日本体力医学会関東地方会

開催日：平成29年7月22日(土) 14:00～開催予定

会 場：ユニコムプラザ さがみはら

(相模原市立市民・大学交流センター)

セミナールーム1・2

相模原市南区相模大野3-3-2

ボーノ相模大野サウスモール3階

(<http://unicom-plaza.jp/facility/>)

小田急線相模大野駅から徒歩3分

[一般演題の締め切り予定：平成29年6月20日(火)]

大会長：北川 淳 (北里大学一般教育部)

Tel: 042-778-8259

E-mail: kitagawa@kitasato-u.ac.jp

日本体力医学会関東地方会事務局

東京慈恵会医科大学分子生理学講座体力医学研究室

竹森 重, 山内秀樹 (事務局担当 田口美香)

〒105-8461 東京都港区西新橋3丁目25番8号

電話 03-5400-1200 (内線2216)

FAX 03-3431-3827

E-mail mol-phys@jikei.ac.jp

第28回日本体力医学会スポーツ医学研修会のご案内

日本体力医学会学術委員会主催の本研修会は基礎コースと応用コースに分かれ、それぞれ2日間、講義と実習を行います。実習は救急救命法、健康者や生活習慣病罹患患者に対する運動処方、傷害予防・機能回復の筋力トレーニングおよびテーピングなどです。アスリートを対象とした研修内容ではありませんのでご注意ください。

全てのコースを受講して修了試験に合格し、所定の手続きをとると「日本体力医学会健康科学アドバイザー®」の称号を受けることができます。称号取得を希望される方は、日本体力医学会に入会し、会員になっていただく必要があります。

この研修会には日本体力医学会非会員の方も参加できます。また、他の研修会を受講し、資格や称号を取得された方で、それらの更新に必要な認定単位取得のために本研修会を受講されても結構です。受講証明書を発行いたします。

尚、実習を行う関係上、各年度の参加人数に制限がありますことをご了解下さい。昨年度は諸事情によりテーピング実習を行いませんでしたが、本年度は実施致します。また、応用コースの2日目最後に「研究計画の作成に関するグループワーク」も新たなプログラムとして追加しました。多数の方のご参加をお待ちしております。

平成28年11月10日

日本体力医学会学術委員会・スポーツ医学研修会実行委員会

山内 秀樹 太田 眞 木村 真規 進藤 大典 成田 和穂 湊 久美子 山口 眞紀

1. 会 場

東京慈恵会医科大学西新橋校各会議室・大学1号館6F機能系実習室など

2. 日時および研修内容

(I) 基礎コース

運動生理学やスポーツ医学等の基礎的事項を前提に、さらに進んだ生理学（神経・筋、呼吸、循環、代謝など）や生化学、栄養学および運動処方の基礎などを中心に学びます。

平成29年6月30日(金)	9:00~10:30	運動と神経・筋
	10:40~12:10	運動と呼吸
	12:10~13:10	昼休み
	13:10~14:40	運動と代謝
	14:50~16:20	運動と栄養
	16:30~18:00	運動と循環
平成29年7月1日(土)	9:00~10:30	運動処方の基礎
	10:40~12:10	高血圧および心血管疾患の運動処方
	12:10~13:10	昼休み
	13:10~14:40	生活習慣病の運動処方
	14:50~16:20	運動器疾患の運動処方
	16:30~18:00	運動による認知症の予防・改善
	18:15~	懇親会（会費3000円、参加自由）

(II) 応用コース

基本的な運動指導の実際について学びます。実習では自転車エルゴメータによる運動負荷試験をもとに運動処方を作成します。また、近赤外分光装置を用いた運動時の筋酸素化動態のチェック、呼吸機能検査、体組成測定法、テーピングや筋力トレーニング実習、研究計画の作成に関するグループワークも行います。

平成29年8月4日(金)	9:00~12:10	運動処方実習（自転車エルゴメータを用いた運動負荷試験, 心電図記録, 筋有酸素能検査, 呼吸機能検査, 体組成測定実習）
	12:10~13:10	昼休み
	13:10~17:00	救急救命実習（人体模型を用いた実習）
平成29年8月5日(土)	9:00~12:10	運動処方の実際（前日の運動負荷試験で得られたデータを基に各被検者の運動処方を作成し, 実施する） スポーツ傷害に対するテーピング実習
	12:10~13:10	昼休み
	13:10~14:40	スポーツ傷害予防のための筋力トレーニング実習
	14:50~16:20	研究計画の作成に関するグループワーク

注意：講師の都合により講義時間割りを変更する場合がありますのでご了承下さい。

3. 修了試験と称号について

基礎コースおよび応用コースの両コースを受講した方は、所定の修了試験を受験することができます。修了試験は平成29年8月6日(日) 10:00~12:00に東京慈恵会医科大学で行います。修了試験の合格者には合格証を発行いたします。また、修了試験合格後、所定の手続きを経て、日本体力医学会健康科学アドバイザー®の称号を取得することができます。

※「日本体力医学会健康科学アドバイザー認定試験過去問集（正解/解説付）」(税込：2,000円)がありますので、是非ご利用下さい。下記の「9. 申込書送付先および問い合わせ先」へお申込み下さい。

4. テキスト

担当講師が用意した講義資料を簡略なテキスト化し、それに準じて講義が行われます。また、プレゼンテーション資料も必要に応じて当日配布致します。

5. 受講料

受講料は（Ⅰ）基礎コース、（Ⅱ）応用コースおよび修了試験の全てを受講する場合は50,000円、単科コース（基礎コース、応用コースの各コースを単独受講）を受講する場合はそれぞれ25,000円（2日間コース）です。2コースの受講を原則としますが、定員に余裕があれば、単科コースの受講も可能です。その年度に受講しなかったコースを次年度以降に受講すれば、全コース受講後修了試験を受験することができます。尚、学生受講者は30,000円（基礎・応用コース）と致します。ただし、学生証の呈示が必要です。

6. 受講資格と定員

スポーツ医学研修会受講資格は特に定めませんが、2コース受講後に行われる修了試験に合格し、「日本体力医学会健康科学アドバイザー®」の称号取得申請を希望する方は日本体力医学会会員でなければなりません。但し、自己研鑽のために本研修会を受講される方や他団体の資格や称号の登録更新のための認定単位取得が目的の場合は日本体力医学会会員になる必要はありません。

定員は各コース40名です。

7. その他

健康運動指導士、同実践指導者の登録更新に必要な履修単位90分1単位（講義題目8科目認定）およびTHPではそれぞれ基礎コース5単位、応用コース5単位が認定されます。

8. 申し込み方法

本研修会受講希望者は、葉書またはFAXで、日本体力医学会スポーツ医学研修会を受講したい旨を下記までご連絡下さい。仮申込受付後、申込書類をお送りいたしますので、要領に従いお申込下さい。なお、申込に際し、受講料をご案内の口座に2週間以内にお振込み下さい。お振込みをもって正式な申し込みとさせていただきます。定員に達し次第、締め切らせていただきますのでご了承下さい。受講票、受講料などの連絡は、受講通知とともに後日ご案内させていただきます。

なお、申し込みが20名に満たない場合には中止させていただきますのでご了承下さい。その時には受講料を払い戻しますが、本人都合による返金には応じられませんので、あらかじめご了承下さい。

9. 申込書送付先および問い合わせ先

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13ユニゾ小石川アーバンビル4F

一般社団法人 学会支援機構内

日本体力医学会スポーツ医学研修会 係

電話：03-5981-6015 FAX：03-5981-6012

E-mail：jspfsm@asas.or.jp

第28回日本体力医学会スポーツ医学研修会仮申込書

下記の通り、研修会の受講を申込ます。(該当する□にレ印をつけて下さい。)

第28回 基礎コース

第28回 応用コース

試 験

氏 名 _____

連絡先 〒 _____

TEL： _____ E-Mail： _____

日本医学会だより

JAMS News

2016年10月 No. 56
日本医学会

◆日本医学会公開フォーラム

第21回日本医学会公開フォーラムは「乳がん—最新情報を知ろう—」をテーマに、12月24日(土)13:00~16:00, 日本医師会館大講堂において開催する。組織委員長は、中村清吾 昭和大学医学部乳腺外科教授。参加申し込みは郵便はがき, FAX, 本会HP (<http://jams.med.or.jp/>)にて受付中。参加費無料。詳細は日本医学会ホームページに掲載。

◆日本医学会シンポジウム

第150回シンポジウムは「肥満症」をテーマに、12月15日(木)13:00~17:00, 日本医師会館大講堂において開催する。組織委員は、春日雅人, 門脇孝の各氏。参加申し込みは郵便はがき, FAX, 本会HP (<http://jams.med.or.jp/>)にて受付中。参加費無料。詳細は日本医学会ホームページに掲載。

◆医学賞・医学研究奨励賞の決定

選考委員会を9月2日(金)に開催し、平成28年度の日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の授賞が決定した。

本選考は、日本医師会から日本医学会に委任されており、今年度の推薦数：医学賞17, 奨励賞34を審査した。

選考の結果、11月1日(火)の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は3名, 奨励賞は15名に授与される。

選考の結果は下記のとおり。

〈日本医師会医学賞〉

- ・2光子イメージングと光操作法による大脳シナプスの研究/河西春郎(東大疾患生命工学センター)
- ・日本における循環器疾患治療のエビデンス/小川久雄(国立循環器病研究センター)
- ・重症心不全に対する世界初の心筋再生医療製品「ハートシート」の開発/澤 芳樹(阪大・心臓血管外科学)

〈日本医師会医学研究奨励賞〉

- ・遺伝統計学による新しい疾患ゲノム創薬の枠組みの構築/岡田随象(阪大・遺伝統計学)
- ・交感神経による適応免疫応答の概日リズム形成機構/鈴木一博(阪大免疫学フロンティア研究センター)
- ・大腸がん幹細胞の機能的な同定と新しい治療法開発/佐藤俊朗(慶大・消化器内科学)
- ・メタボリックシンドロームの病態形成における臓器間神経ネットワークの意義の解明と治療応用法の開発/宇野健司(東北大・糖尿病代謝内科学)
- ・HMG-CoA還元酵素阻害薬による移植心の冠動脈内膜肥厚抑制効果の解析/内山雅照(帝京大・循環器外科学)
- ・電算化データを用いた認知症・生活習慣病判定のアルゴリズム開発とダイナミックコホート研究への応用/山岸良匡(筑波大・公衆衛生学・生活習慣病予防・疫学)
- ・血管内皮の恒常性維持機構破綻がもたらす臓器線維化機構の解明/金崎啓造(金沢医大・糖尿病内分泌内科学)

- ・蛋白凝集に焦点を当てたアルツハイマー病の病態解明と予防・治療薬開発/小野賢二郎(昭和大・神経内科学)
- ・CDC42 変異により発症する新規疾患 Take-nouchi-Kosaki 症候群の病態解明/武内俊樹(慶大・小児科学)
- ・胃癌腹膜播種に対する特異的分子標的治療薬及びコンパニオン診断法の開発/神田光郎(名大・消化器外科学)
- ・難治性四肢潰瘍患者を対象とした新世代型血管・組織再生治療の開発/田中里佳(順天堂大・形成外科学)
- ・婦人科がんにおけるがん免疫逃避機構の解明と新規治療法の開発/濱西潤三(京大・産婦人科学)
- ・副腎性クッシング症候群における新規腫瘍マーカーの臨床応用/前川滋克(東大・泌尿器科学)
- ・精子幹細胞の分化メカニズムの解明と男性不妊症治療への臨床応用/水野健太郎(名市大・腎・泌尿器科学)
- ・緑内障の房水に含まれるサイトカイン可溶性受容体が緑内障病態および緑内障手術成績に与える影響の検討/井上俊洋(熊本大・眼科学)

◆日本医学雑誌編集者組織委員会

第 18 回日本医学雑誌編集者組織委員会を 8 月 31 日(水)に開催した。

当日の議題は、(1) 一般社団法人学術著作権協会の活動、(2) 第 8 回日本医学雑誌編集者会議(JAMJE) 総会・第 8 回シンポジウム、(3) アジア太平洋地域医学雑誌編集者会議 APAME2016(バンコク) 報告、(4) 医学雑誌編集ガイドライン、(5) 日本医学会利益相反委員会活動報告、等である。

黒川 恵学術著作権協会事務局長並びに金山 伴子学術著作権協会事務局総務担当より、一般

社団法人学術著作権協会の詳細な活動報告が行われたほか、余頃祐介科学技術振興機構(JST) 知識基盤情報部研究成果情報グループ主査より、JaLCにおける DOI 登録の概要とオープンサイエンスへの対応状況等についての説明がなされた。

また、平成 29 年に開催予定の第 8 回日本医学雑誌編集者会議(JAMJE) 総会・第 8 回シンポジウムのプログラム案についても、意見交換を行った。

その他、8 月 26 日(金)～8 月 28 日(日)に開催されたアジア太平洋地域医学雑誌編集者会議 APAME 2016(バンコク)の報告が行われた後、曾根三郎日本医学会利益相反委員会委員長より、日本医学会利益相反委員会活動報告として、「日本医学会 診療ガイドライン策定参加資格基準ガイダンス」の作成と「日本医学会 医学研究の COI マネージメントに関するガイドライン」の改定等について、進捗状況の説明がなされた。

◆移植関係学会合同委員会

第 34 回委員会は審査の迅速化をはかるため、委員会を開催せず持ち回り開催とした。審議事項は移植実施施設の認定で、以下の施設が新たに認定された。

肝臓移植実施施設：福島県立医科大学

脾臓移植実施施設：長崎大学大学院 移植・消化器外科

◆医学用語管理委員会

第 16 回委員会を 9 月 29 日(木)に開催した。主な議題は平成 28 年度日本医学会分科会用語委員会について等である。分科会用語委員会は 12 月 5 日(月) 15:00～17:00、日本医師会館小講堂で開催することが決定した。ICD-11 について、厚生労働省 ICD 室の方から講演をいただくほか、5 演題を予定している。

編 集 後 記

2016年もあっという間に年の瀬です。1年間を振り返る季節がやってきました。今年、研究関連で私が印象に残ったニュースと出来事を2つ紹介させていただきます。

1つ目は大隅良典教授のノーベル生理学・医学賞の単独受賞です。酵母を顕微鏡で観察することでオートファジー（自食作用）の仕組みを解明されました。「人がやらないことをやろう」という興味から酵母の液胞の研究を始めた。ガンや寿命の問題解明につながると思って始めた訳ではない。基礎科学の重要性を強調したい」との大隅先生の言葉にインパクトを受けました。

2つ目ですが、John O. Holloszy博士（ワシントン大学 セントルイス）が自身の研究室を今年の8月末に閉じました。Holloszy研究室から発表された初めての論文は、1967年にJ Biol Chem誌に掲載された「運動によって筋のミトコンドリア酵素活性が高まる」との報告です。その後、50年間に亘って研究室から発表されてきた論文の総引用回数は38,000件だそうです。1日2件の頻度で引用されてきた勘定になります。また、私を含めて多くの体力医学会会員がポストドクとしてお世話になりました。留学時代は実験データをみながら、毎週、Holloszy先生の研究室で二人だけで議論をしていただきました。優しく指導していただきましたが、あらためて贅沢な時間だったなと振り返っています。運動生理学分野で1つの時代が終わったとの感慨とともに、Holloszy博士の研

究スピリットを次の世代に引き継いでいく責務を感じています。

さて、前置きが長くなりましたが、「体力科学」第65巻第6号をお届けいたします。本号には原著論文2編、資料1編が掲載されております。本号を含めて、今年1年間、編集に携われた方々、特に、忙しい日々のなかで貴重な時間を割いて査読の労をとっていただいた先生方に改めまして御礼申し上げます。また、これまで、日本体力医学会大会の一般演題抄録は「体力科学」第6号に掲載されておりましたが、今年から英文誌「JPFMS」に掲載されることとなりました。第71回日本体力医学会大会の開催された盛岡は吹き抜ける風が爽やかで、北上川の川岸から岩手山の緑をぼんやりと眺める非日常の時間も楽しむことができました。学会の会場や運営も素晴らしかったです。学会大会を主催された関係者の皆様に心より御礼申し上げます。そして、学会で発表された会員の皆様には、その研究成果を是非、「体力科学」に投稿していただくことをお願い申し上げます。また、英文誌「JPFMS」はPubMedへの掲載とインパクトファクター獲得に向けて奮闘中です。こちらへの投稿にも是非挑戦していただければと思います。

川中健太郎

The Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol.65, No.6

体 力 科 学 第 65 巻 第 6 号

平成 28 年 11 月 25 日 印 刷

平成 28 年 12 月 1 日 発 行

編集兼発行者
発 行 所

田 中 喜 代 次
一般社団法人日本体力医学会
〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13
ユニゾ小石川アーバンビル4階 学会支援機構内
TEL: 03-5981-6015 FAX: 03-5981-6012
E-mail: jspfsm@asas.or.jp

編 集 事 務 局

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合 1-1
鶴岡印刷株式会社内
TEL: 0235-22-3120 FAX: 0235-22-3120
E-mail: hj-tairyoku@turuin.co.jp

印 刷 所

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合 1-1
鶴岡印刷株式会社
